

# 人間再発掘シリーズ



5度目の五輪を目指す重量挙げエース 三宅宏実の「いま」

【デイリースポーツ制定「ホワイト・ベアスポーツ賞」受賞者編】

メダル1号への自信を問われ、アテネ五輪(9位)での悔しさを活かし、今回は結果を出したいと思っています。プレッシャーは感じますが、それを力に変えて頑張りたい」とコメントし、父・義行も、アテネ前には辞退を考えたほどの腰痛に悩まされただけに「今回は大きなケガやアクシデントもなく、ほぼほぼ予定通りに調整ができた」と、娘の調整力に信頼を寄せた。

入賞を果たしたものの、05年にマーケした自己ベストの日本記録191キには及ばず。メダル第1号の期待感が高く、宏実にも手応えがあっただけに失望感は大きかった。「アテネの時は純粹に悔しさがこみ上げましたが、北京はそれ以上にメダルが取れなかった失望感や、どこか恥ずかしさも味わいました。オリンピックに出場するたびに、何だかまた4年をかけた宿題を出されるような気がしました」

2008年8月9日の競技を前に、三宅宏実(33歳)ら代表選手は北京で記者会見に臨んだ。スケジュールの上で(48キ級決勝が最初に実施されるため)、宏実が北京五輪のメダル第1号になる可能性もあり、会見には多くの記者が詰めか

北京では6位に終わり、宏実には複雑な表情。右下は父・義行(共同)



## 北京で6位入賞も失望感「また4年かけた宿題を」

「アテネの9位から6位と、見事にはこうして熟成されて行った。アテネで感じた、五輪が自分を奮い立たせてくれる、そんな思いは一層強くなった。帰国する前に早くもロンドンを目指すと決める。しかし、目標は係、繰り返すケガ、全てが191キのロンドンでも、そこまでの道のりが重みに加わっていた。長いトンネルに迷い込んだのは、宏実だけではな

「特に感慨は湧きませんよ。4年間に全」

敬称略